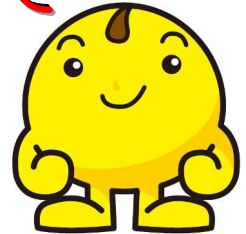


# 大豆の集荷・販売状況について



## 1. 28年産の集荷見込数量

### (1) 全 国

ア. 作付面積の増加により、集荷見込数量は、前年実績を9千トン上回る19万3千トン（前年比105%）となっています。

イ. 地域別では、天候不順となった西日本で前年を下回っているものの、作付が増えた北海道や天候に恵まれた九州では前年を上回っています。

### (2) 本 県

品質・収量ともに「平年並み」が見込まれ、集荷見込数量は、豊作だった前年を1千トン下回る7千8百トン（前年比89%）となっています。

#### ア. エンレイ

集荷見込数量は6,700トン、単収は172kgと見込まれます。品質については、1～2等比率は9.1%となっており、「しわ粒」が主な格落ち要因となっています。

#### イ. 里のほほえみ

集荷見込数量は720トン、単収は194kgと見込まれます。品質については、1～2等比率は38.3%となっており、「皮切れ粒」が主な格落ち要因となっています。

なお、里のほほえみについては、品質・収量面で有利と考えられることから、生産者、JA、実需者の意向を踏まえ、エンレイ等からの切り替えをすすめています。

【表1. 28年産大豆の地区別集荷見込数量】

	28年産		27年産		対差		対比	
	面積 (ha)	集荷見込 (トン)	面積 (ha)	集荷実績 (トン)	面積 (ha)	数量 (トン)	面積 (ha)	数量 (トン)
北海道	33,942	64,100	29,421	59,600	4,521	4,500	115%	108%
東日本	40,824	60,900	40,272	61,400	552	-500	101%	99%
西日本	26,113	31,900	26,397	34,900	-284	-3,000	99%	91%
九州	19,951	35,900	19,799	27,700	152	8,200	101%	130%
<b>全国</b>	<b>120,830</b>	<b>192,800</b>	<b>115,889</b>	<b>183,600</b>	<b>4,941</b>	<b>9,200</b>	<b>104%</b>	<b>105%</b>
<b>新潟</b>	<b>4,474</b>	<b>7,800</b>	<b>4,555</b>	<b>8,750</b>	<b>-81</b>	<b>-950</b>	<b>98%</b>	<b>89%</b>

【表 2. 本県産大豆の品種別集荷見込数量・検査状況】

品種	面積 (ha)	単収 (kg/10a)	集荷見込 (トン)	検査状況(11月末時点)				
				1等	2等	(1・2等計)	3等	特定加工等
エンレイ	3,892	172	6,700	0.2%	8.9%	(9.1%)	43.5%	47.4%
<b>里のほほえみ</b>	<b>373</b>	<b>194</b>	<b>720</b>	<b>11.5%</b>	<b>26.8%</b>	<b>(38.3%)</b>	<b>46.2%</b>	<b>15.5%</b>
その他	209	181	380	1.4%	16.0%	(17.3%)	45.3%	37.4%
合計	4,474	175	7,800	1.2%	11.1%	(12.3%)	43.9%	43.8%

【表 3. 28～30年産銘柄別生産計画】

(単位:ha)

	28年産	29年産	30年産
里のほほえみ	373	870	3,100
エンレイ	3,892	3,660	1,700
その他	209	220	150
合計	4,474	4,750	4,950

※28年産は、出荷契約実績。

※29・30年産は、JA意向調査結果および種子生産計画等にもとづく。

## 2. 28年産の販売状況

### (1) 需給環境

2年連続(26・27年産)の豊作に加え、28年産で作付が増加したことから、需給は大きく緩和することが見込まれます。

【表 4. 需給イメージ(全農推定)】

(単位:千トン)

区分/年産(11月～10月)		28	27	26	25
1	集荷数量	193	184	177	151
2	前年繰越	54	50	43	62
3	供給量(1+2)	247	234	220	213
4	使用量	180	180	170	170
5	次年度繰越(3-4)	67	54	50	43
6	年間需要に占める繰越比率	37%	30%	29%	25%

## (2) 入札取引

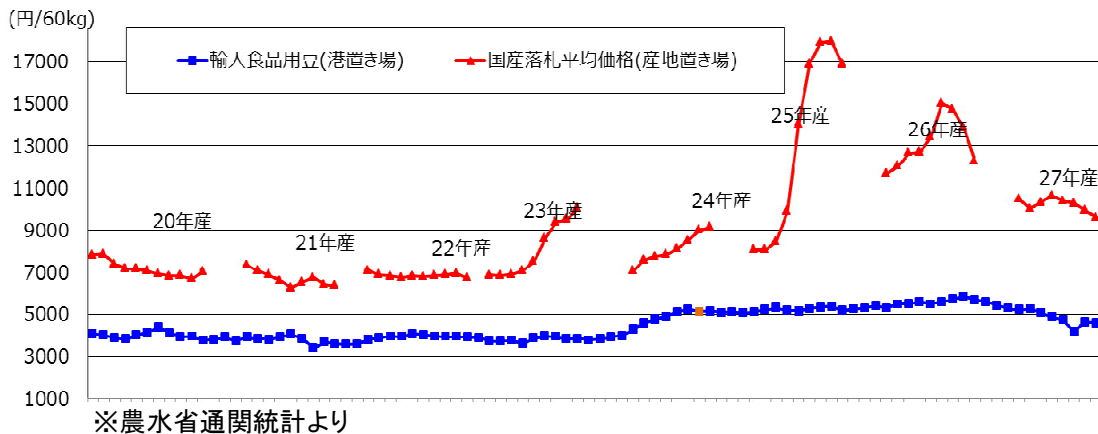
ア. 入札取引については、集荷数量の3分の1が義務上場となっており、全国で6万4千トン、本県で2千6百トン程度の上場を計画しています。

イ. 第1回入札は、12月14日に実施されました。需給緩和を背景に全国、本県とも落札価格は前年を下回り、落札率は3～4割程度となっています。

ウ. 今後は、毎月1～2回のペースで実施され、7月頃までに10回程度実施される予定となっています。

エ. なお、価格の安定と事前契約の拡大をはかるため、30年産からの播種前入札の導入が検討されており、29年産で試験的な入札の実施が予定されています。(29年4月)

【表5. 輸入食品用大豆と国産大豆の価格推移(20～27年産)】



【表6：28年産大豆入札取引結果(12月)】

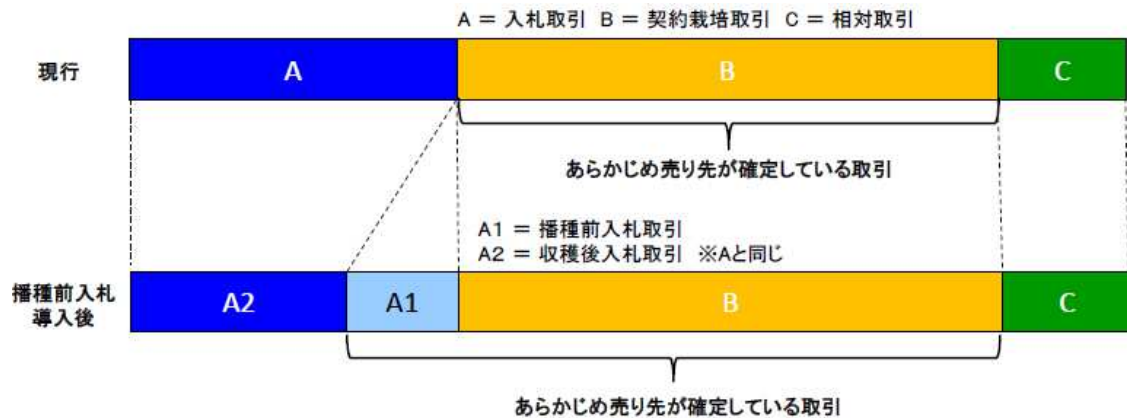
		上場数量 (トン)	落札数量 (トン)	落札率	落札平均価格 (円/60kg、税別)
全国	28年産	5,009	2,020	40%	8,808
	27年産	3,511	3,095	88%	10,014
	前年差	+1,498	△1,075	△48%	△1,206
新潟	28年産	673	198	29%	8,872
	27年産	495	455	92%	9,531
	前年差	+178	△257	△63%	△659

【表7. 平成28年産本県産大豆の販売計画】

(単位:トン)

	入札取引	契約栽培	相対取引	合計
28年産	(33%) 2,600	(49%) 3,850	(18%) 1,350	7,800

【図表 8. 播種前入札導入イメージ】



### 3. 29年産の生産に向けて

国産大豆の需給は緩和傾向にありますが、本県産大豆については、実需者から一定の評価を受けており、安定供給を強く求められています。

29年産も引き続き単収および品質の向上を目指し、需要の維持・拡大をはかりましょう。

（ 米穀部 総合対策課 ）